



沼袋駅周辺地区まちづくり構想

豊かな緑や歴史と親しみ
人とまちがつながいながら
商店街と住宅地が笑顔であふれ、
安心して暮らせるまち沼袋

平成27年2月

沼袋駅周辺地区まちづくり検討会

【沼袋駅周辺地区まちづくり検討会 会員名簿】

平成27年1月現在

〈会長〉	小林 交成	(沼袋1丁目)	〈会員〉	相田 英男	(沼袋1丁目)
〈副会長〉	岡安 進	(沼袋3丁目)		浅野 篤彦	(沼袋4丁目)
	高木 明郎	(江古田4丁目)		荒川 正二	(沼袋3丁目)
	羽根田 新平	(沼袋4丁目)		石原 照夫	(沼袋3丁目)
〈事務局長〉	松本 和巳	(江古田4丁目)		石原 徹	(沼袋3丁目)
〈会計〉	宇佐見 道夫	(江古田4丁目)		植原 慶和	(沼袋1丁目)
	並木 通夫	(沼袋3丁目)		織茂 祥夫	(沼袋2丁目)
〈監事〉	伊藤 照雄	(沼袋1丁目)		亀井 利一	(沼袋3丁目)
	吉野 仁志	(沼袋1丁目)		郡司 昌江	(沼袋2丁目)
〈運営委員〉	相田 智得	(沼袋3丁目)		小島 斗輝生	(沼袋4丁目)
	池田 正基	(沼袋1丁目)		坂口 昭夫	(沼袋2丁目)
	伊藤 嘉規	(沼袋4丁目)		坂田 宏子	(沼袋2丁目)
	大塩 裕司	(沼袋1丁目)		佐久間 進	(沼袋1丁目)
	笹川 剛	(沼袋4丁目)		佐野 隆	(沼袋1丁目)
	鈴木 庄吉	(沼袋2丁目)		志賀 道夫	(沼袋4丁目)
	塚本 晴彦	(沼袋4丁目)		鈴木 洋成	(沼袋1丁目)
	納谷 光和	(沼袋1丁目)		塚本 富美	(沼袋4丁目)
	宮 将史	(江古田4丁目)		長谷川 文男	(江古田4丁目)
〈相談役〉	高橋 秀三	(沼袋町会会長)		百武 伸茂	(江古田4丁目)
	北原 奉昭	(沼袋親和会会長)		松井 玲映	(沼袋2丁目)
	笹川 五郎	(江古田四丁目町会会長)		森田 瑞男	(沼袋1丁目)

沼袋駅周辺地区まちづくり構想は、まちづくり専門家の市川均先生（早稲田大学 都市・地域研究所招聘研究員）に、アドバイスをいただきながら作成いたしました。

目次

1. まちづくり構想のとりまとめにあたって
2. 地区の概要
3. 地区の魅力と課題
4. まちの将来像とまちづくりの目標とまちづくりのテーマ
5. 将来のまちづくりのイメージ
6. まちづくりのテーマごとの方針と具体的な取組み
7. まちづくりの推進のために
8. 今後の取組み

【参考資料】（別冊）

- 参考資料1. 活動概要
- 参考資料2. 地区の現況
- 参考資料3. まちの魅力と課題のアンケート結果
- 参考資料4. まちづくり構想（素案及び案）に対する意見のまとめ
- 参考資料5. 取組みアイデアのまとめ

1. まちづくり構想のとりまとめにあたって

◆沼袋のまち

沼袋のまちは、住宅地と商店街が共にその良さを醸し出し、みどり豊かな寺社が広く分布し、まちの拠り所になるなど、下町情緒豊かでふれあいのあるまちとして栄え、営まれてきました。しかし、時代や環境の変化に伴い、開かずの踏切問題をはじめとした交通基盤整備の遅れや木造密集等による災害への脆弱性、商店街の賑わいの低下などが生じています。

一方、まちの伝統や習わしの継承への努力が日常的に続けられるとともに、人のつながりを生む世代を超えた住民のイベントなど、まちに新たな交流と活力を育む取組みが芽生えています。

◆まちづくりの契機となる都市計画決定

こうした中、平成23年8月に西武新宿線の連続立体交差事業とその関連街路事業としての区画街路第4号線の都市計画決定がなされました。

西武新宿線の連続立体交差事業は、西武新宿線を地下化するものです。これにより、踏切がなくなり慢性的な交通渋滞が解消し、安全性の向上と鉄道により分断されていた地域が一体となり、鉄道跡地に新しい公共的空間を生み出すことができます。

また、区画街路第4号線の整備は、沿道住民等の理解と協力のもとバス通りを拡幅して2車線の道路にし、駅前に交通広場を整備するものです。これにより歩道ができ安全性や交通環境・利便性が向上し、沿道の商店街が建て替わります。

◆検討会の発足

私たち地域住民は、これらを、沼袋を変える、変わる契機と捉え、今までの沼袋の良さを活かし、新たな沼袋を創るとの思いから、平成24年9月に町会や商店会、公募の方々からなる「沼袋駅周辺地区まちづくり検討会」を発足しました。

本会は、本地区を魅力的で活力あるまちにするために、まちづくり構想を策定し、区と協働してまちづくりを進めることを目的としています。そして、平成25年9月には中野区地区まちづくり条例の地区まちづくり団体に登録されました。

◆活動の経緯

検討会では、実際にまち歩きや事例視察をし、地区の魅力と課題を確認するとともに、アンケートや報告会など地域のみなさんの声を聴きながら、まちの将来像、まちづくりの目標とテーマ、まちづくりの方針と具体的な取組みなどについて28回まちづくり検討会を開催し議論を重ね、今回「沼袋駅周辺地区まちづくり構想」として取りまとめました。

◆まちづくり構想への思い

まちづくりの主役は、住民です。このまちを良くしたい、誰もがずっと住み続けられるまちにしたいという思いは、沼袋に住み、働き、学ぶ人全員の共通の願いです。住民自ら様々な地域課題の解決に向けて力を合わせ、思いを行動に変えていくことがまちづくりの一歩となり、まちづくりには欠かせません。

私たち、「沼袋駅周辺地区まちづくり検討会」では、常に環境に最大限配慮し人が中心のまちづくりを議論の根底に置いてきました。この「沼袋駅周辺地区まちづくり構想」が、新しい沼袋を創るスタートになるものと確信しています。

今後も引き続き、この内容を地域住民と区で共有しつつ、地区まちづくり条例の登録団体として、まちづくり構想の実現に向けた協働によるまちづくりを進めてまいります。



2. 地区の概要

●対象地区について

◆対象地区の範囲

対象地区は、沼袋 1～4 丁目（全域）、江古田 4 丁目（全域）、丸山 1 丁目（1 番）、新井 3 丁目（1 番と 38 番）を範囲とし、東西約 1km、南北約 1.3km、地区面積は約 89ha である。



◆地区の状況

- 地区の人口は、約 17,000 人で、世帯数は約 10,000 世帯である。
- 中野区中心部である中野駅からは北方約 1.5km にある。
- 地区南部には西武鉄道が東西に横断し、沼袋駅から西武新宿線で西武新宿駅まで約 10 分である。
- 地区北側には新青梅街道が東西に横断し、西側に環状七号線、東側に中野通りが南北に縦断する。
- 沼袋駅前から新青梅街道までのバス通り（幅員約 6m、歩道なし）の沿道は商店街になっている。
- 主要なバス路線は、中野駅と練馬駅を結ぶ 1 系統が運行し、中野駅行のみ沼袋駅を経由している。
- 地区南側から東側の地区界に沿って、妙正寺川が流れる。
- 地区南側に隣接して平和の森公園、近接して江古田の森公園、哲学堂公園がある。

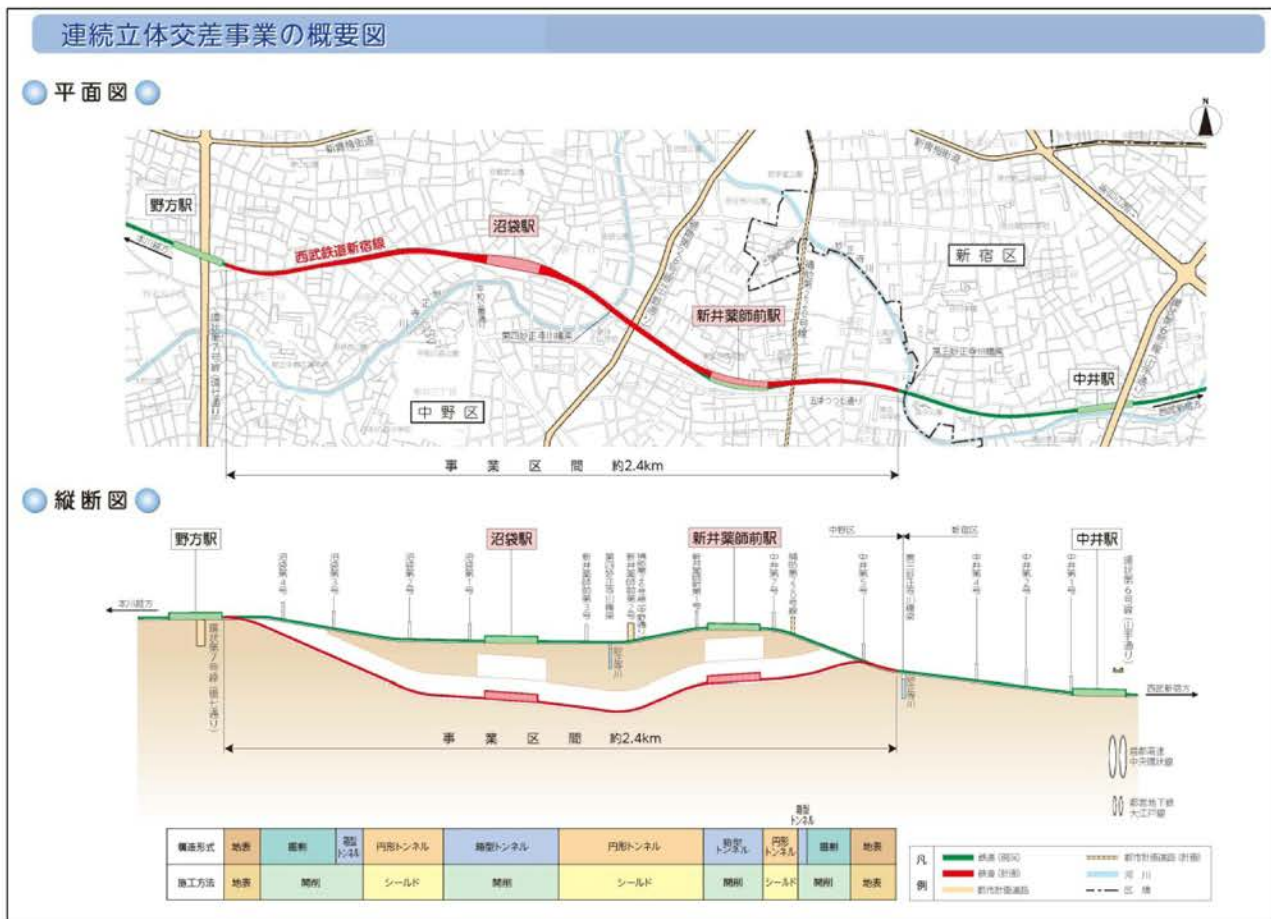
● まちづくりの契機となる事項

◆西武鉄道新宿線（中井駅～野方駅間）連続立体交差事業（施行者：東京都）

（平成 23 年 8 月 19 日：都市計画決定<東京都決定>）

（平成 25 年 4 月 1 日：事業認可<国土交通省認可>）

西武鉄道新宿線の中井駅付近から野方駅付近までの約 2.4 km について、鉄道が地下化され、道路と鉄道が連続的に立体交差化されるものです。事業の完成予定は平成 32 年度とされています。



資料：東京都ホームページ 西武新宿線（中井駅～野方駅間）連続立体交差事業の概要

◆東京都市計画道路 区画街路 中野区画街路第4号線（施行予定者：中野区）

（平成 23 年 8 月 19 日：都市計画決定<中野区決定>）

新青梅街道から沼袋駅南口までの区間約 560m において、現道幅員約 6m が幅員 14m (2 車線) に拡幅されるとともに、約 2,800 m² の交通広場が整備されます。事業の完成予定は、平成 35 年度とされています。



資料：東京都市計画道路中野区画街路第3号線および第4号線についてパンフレット

3. 地区の魅力と課題

地区のまち歩きや地域へのアンケート等を行い、まちの魅力と課題を抽出しまとめました。

まちの魅力



新宿や中野など、都心に近く、便利な立地である。



平和の森公園に隣接し、妙正寺川が流れるなど、自然資源が豊かである。



複数の商店街とみどり豊かな閑静な住宅地があり、住み心地がいい場所である。



歴史ある寺社が多く、神社のお祭りやまちおこしジャズなどがあり、歴史文化資源に恵まれている。

まちの課題

道路・交通



- 駅前にバスやタクシーへの乗換えのための広場がない。
- 南から北へのバス路線が沼袋駅を通らないなど不便なため、中野駅などとのバスの利便性の向上が求められる。
- 道路に段差などが多く、休憩する場所も少ないため、歩行者にとって安心して歩けるゆとりある空間が確保されていない。
- バス通りなどは交通量が多く、自転車による事故が発生しており、人・自転車・車が交錯する道路が通勤通学路になっている。
- 利用しやすい駐輪場が少なく放置自転車や荷降ろし車両などによる違法駐車が多い。

まちの活性化



- 駅前に憩いやイベントスペースなど、日常生活や文化活動などを支える場が不足している。
- 小規模な住宅が多いため、子どもやファミリー層が少なく、多様な世代が暮らすことができるような住環境が求められる。
- だれもが利用しやすい生活や地域活動を支える機能を持つ施設が求められる。
- 子育て世代を支える機能（保育園等）の充実が求められる。
- 商業活力が低下しているため、区画街路第4号線の整備にあわせて、商店街の充実、活気、賑わいなど活性化が求められる。
- 町会や商店会、地域団体などが連携し、商店街や寺社による催しなどをPRすることが求められる。
- 暮らしやすさの向上のため、まちの使い方（マナー）の向上が求められる。

防災・安全



- 低層の木造住宅が密集しており、沼袋は地震による建物倒壊、火災の危険性が高くなっている。
- 避難所や避難場所へ安全に避難できる道路が不足している。
- 緊急車両が通行できない狭い道路が多い。
- 火災の延焼を遅らせることのできる、道路や建物等が少ない。
- 妙正寺川や江古田川の周辺は大雨時に浸水が予想されるため、治水対策が求められる。
- 消火栓・消火器・防災資材倉庫等の備えはあるが、これらの情報の共有とともに東日本大震災をふまえた災害時の高齢者等へのサポートのため、町会や住民など地域住民の連携強化が求められる。

みどり・水・歴史文化資源



- 周辺に大規模な公園があるが、地区内の公園は小規模なため、住宅地内のみどりを守り増やすことが求められる。
- 妙正寺川を魅力的な空間にするため、うるおい・環境・防災に寄与する親水空間とすることが求められる。
- 寺社や歴史民俗資料館などの歴史文化資源や、平和の森公園などの自然資源の活用が求められる。

4. まちの将来像とまちづくりの目標とまちづくりのテーマ

◆まちの将来像

**豊かな緑や歴史と親しみ、人とまちがつながりながら、
商店街と住宅地が笑顔であふれ、安心して暮らせるまち沿袋**

4つの視点で設定しました。

- まちの魅力である自然や寺社が活かされ、ふれあいがいっぱいある。
- 生活の拠点として、人とひと、まちと人がつながりながら、生き生きと活動している。
- なつかしさとあたらしさが融合した商店街では、親しみとあたたかさにあふれている。
- 日頃の支えあいが災害時に活かされ、燃えにくい安全なまちになっている。

◆まちづくりの目標

**新たに創出する魅力が地域資源と融合し
生活を支える良好な環境を生み出すまち**

西武新宿線が地下になり、バス通りが広くなり、沿道の建物の建て替えが進む、構想提案から10年～15年後を想定して、まちの将来像を見据え、まちづくりの目標を設定しました。

◆まちづくりのテーマ

まちづくりの目標を実現するために、4つのまちづくりのテーマを設定し、テーマごとに方針を定めました。

テーマ：道路・交通

「だれもが安心して歩いて暮らせるまちの実現」

方針 1 快適で歩きやすい道づくり

方針 2 便利でやさしい交通の利用環境づくり

テーマ：まちの活性化

「住む人の暮らしを支える魅力的なまちの実現」

方針 3 多様な世帯が暮らせる良好な環境づくり

方針 4 商店が生き活きと商いができる環境づくり

方針 5 まちの新たな顔となる拠点づくり

方針 6 人びとの交流が深まる環境づくり

テーマ：防災・安全

「災害に強くみんなで支えあう安全なまちの実現」

方針 7 災害時に命を守る人づくり・組織づくり

方針 8 被害を最小に抑える減災につながるまちづくり

テーマ：みどり・水・歴史文化資源

「みどりや歴史・文化に親しみ憩えるまちの実現」

方針 9 みどりの繋がり新たな緑化の推進

方針 10 自然資源や歴史・文化資源の活用

5. 将来のまちづくりのイメージ

新たに創出する魅力と、まちの魅力を生み出し活用する主な地域資源を示しました。

新たに
創出する
まちの魅力

【拠点】

- ◆ 駅周辺（コミュニティ広場※、駅舎、交通広場などを含む）
 - ・ 交通を結節し乗り換えを円滑にする交通広場
 - ・ 交通広場に連続した駅舎とコミュニティ広場※
 - ・ バス通り沿道とつながる沼袋の顔にふさわしい景観
 - ・ 人びとの出会いや交流を促す場
 - ・ 暮らしを支える様々な施設やまちの情報を発信する機能
 - ・ 災害時の防災拠点機能
 - ・ みどりと憩える場としてのコミュニティ広場※
- ◆ 区民活動センター周辺（区民活動センター、丸山塚公園）
 - ・ 駅周辺を補完する暮らしを支える機能
 - ・ 丸山塚公園を中心としたみどりと憩える場
 - ・ 地域コミュニティ活動や交流の場
 - ・ 災害時の防災拠点機能

【軸】

- ◆ バス通り沿道（区画街路第4号線、地区集散道路第3号）
 - ・ 人が歩きやすく行き来しやすいみち
 - ・ 充実したバス路線
 - ・ 買い物しやすい商店街
 - ・ 沼袋らしい統一されたまちなみ
 - ・ 骨格となる避難ルートとして安全に避難できるみち
- ◆ 鉄道跡地
 - ・ 地区内から幹線道路につながる道路ネットワーク
 - ・ みどりと休憩スポットなど憩いの環境が整い、みどりにつながる空間
 - ・ 骨格となる避難ルートとして安全に避難できるみち

まちの魅力
を生み出し
活用する
主な
地域資源

【歴史資源】 ◆ 寺社等（寺、神社、歴史民俗資料館など）

- ・ まちの回遊性を結ぶ場
- ・ 災害時に活用する場
- ・ 保全し活用する歴史資源

【施設資源】 ◆ 沼袋小学校跡地 ◆ 区民活動センター

- ・ 地域活動や交流を支える場
- ・ みどりと憩いの場
- ・ 災害時に活用する場
- ・ 健康増進の場

【自然資源】 ◆ 妙正寺川沿い ◆ 寺社や公園のみどり

- ・ 災害時に活用する水
- ・ みどりと水に親しめる場

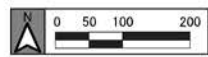
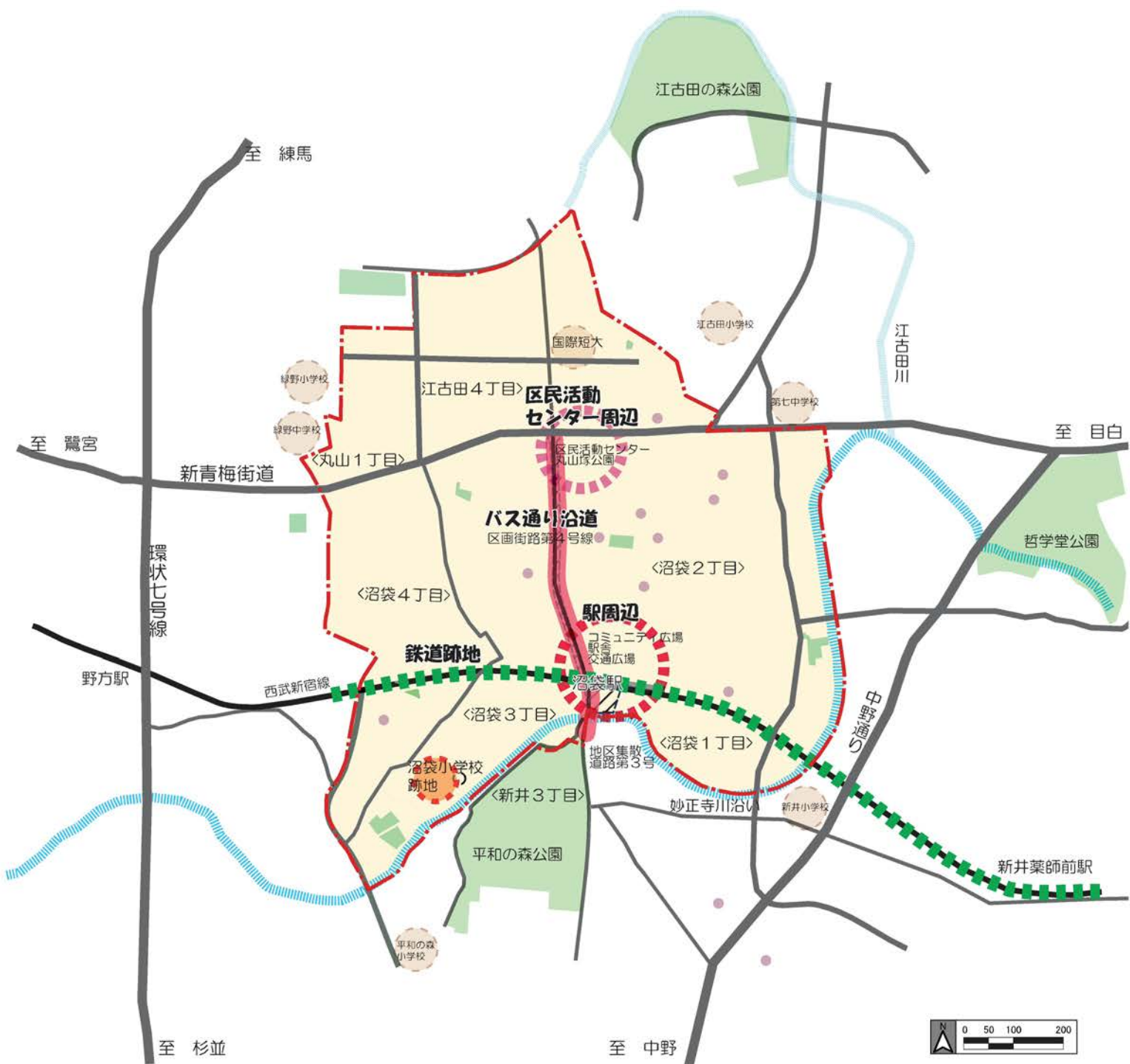
【社会文化資源】 ◆ イベント・お祭り

- ・ 交流が深まるコミュニティ活動

【人的資源】 ◆ 町会・商店会・地域防災会等

- ・ 地域活動の推進力
- ・ 地域の連帯と活性化の要

※コミュニティ広場—人々の出会いや交流の場。駅舎と交通広場と一体として創出されることを検討会として想定。



- | | | | |
|--|--|---|---|
|  駅周辺
・コミュニティ広場
・駅舎
・交通広場 |  バス通り沿道
・区画街路第4号線
・地区集道路第3号
・沿道 |  寺社等
寺・神社・歴史民俗資料館等 |  学校 |
|  区民活動センター周辺
・区民活動センター
・丸山塚公園 |  鉄道跡地 |  沼袋小学校跡地 |  公園 |
| | |  妙正寺川沿い | |

6. まちづくりのテーマごとの方針と具体的な取組み

10の方針について、24の◆「具体的な取組み」を整理しました。

具体的な取組みの文末については、「目指します」を原則としていますが、まちづくりの契機となった、西武新宿線の連続立体交差事業と区画街路第4号線に関わる取組みについては、行政や民間事業者と協働し実現させたいという強い思いから「実現します」と表しました。

また、取組みのアイデアについては、「参考資料5.取組みアイデアのまとめ」で紹介しています。

テーマ：道路・交通 **だれもが安心して歩いて暮らせるまちの実現**

方針1 快適で歩きやすい道づくり

◆すべての人にとってやさしい地区内の道づくりの取組み

- 幹線道路※に囲まれた地区内の道路は、時間帯による交通規制などで、地区内を通過する自動車を今より減らすことにより、人が最優先のみちを目指します。
- バス通り※の整備や鉄道跡地の活用により、地区内から幹線道路につながる道路ネットワークの充実を実現します。
- 朝日通りや沼袋4丁目の南北の通り※などの地区内の道路は、歩行者が安全に安心して歩くことができるみちを目指します。

◆歩きやすく憩える道づくりの取組み

- バス通りは、人が歩きやすく行き来しやすい環境づくりにより、商店街として対面性を大切にしたい安全にどこからでも横断できるみちを実現します。
- 駅周辺や商店街、妙正寺川や寺社をめぐる道路は、地域の魅力を活かす回遊性のあるだれもが歩きやすいみちを実現します。
- 鉄道跡地やバス通りなどは、みどりや休憩スポットなどのある憩いの環境を整えたみちを実現します。
- 時間帯による交通規制や交通マナーを向上させることにより、子どもたちが安全に安心して通学できるみちを実現します。

方針2 便利でやさしい交通の利用環境づくり

◆公共交通利用に誘導する取組み

- バスや鉄道の利用環境を向上させることにより、公共交通を優先する交通利用環境を実現します。
- バス通りの相互通行により、中野駅や近隣地域と便利に行き来できるバス路線を実現します。

◆利用しやすい駅及び駅周辺づくりの取組み

- 交通広場は、バス・タクシー・鉄道などへの円滑な乗り換えなど、交通を結節する機能の確保を実現します。
- 人々が地区内のどの方面にも行きやすい駅及び駅周辺とするため、交通広場に連続した駅舎（駅改札）やコミュニティ広場※の創出を実現します。

◆自転車の利用環境を向上させる取組み

- 自転車走行環境や自転車駐車場の整備により、自転車を利用しやすい環境を整えるとともに、自転車利用のルール徹底とマナーの向上を実現します。

※幹線道路—新青梅街道、中野通り、早稲田通り、環状七号線

※バス通り—区画街路第4号線及び地区集散道路第3号

※沼袋4丁目の南北の通り—右ページの図面に図示（バス通りの西側に南北に通る道）

※コミュニティ広場—人々の出会いや交流の場。駅舎と交通広場と一体として創出されることを検討会として想定。



(商店街として行き来しやすい道の事例)



(コミュニティ広場の事例)



(休憩スポットの事例)

方針3 多様な世帯が暮らせる良好な環境づくり

◆住みやすい住環境にするための取組み

- 既存の住宅の活用などにより、子育て世帯や高齢者世帯など多様な世代が住める住宅の充実を目指します。
- 子育てに必要な機能や子どもが安心して遊べる場の充実により、子育てしやすい環境を目指します。
- 医療・介護・福祉の連携の強化や、生活に密着した情報の発信、周知を行うことにより、暮らしを支える機能の充実を目指します。

◆住み続けられる住環境にするための取組み

- 高齢者が安心して住み続けられる仕組みや居住環境の充実を目指します。
- 地域での支えあいネットワークの構築などにより、地域での支えあい活動の促進を目指します。
- 防犯・美化などの地域活動の充実により、安全に安心して快適に暮らし続けられる環境を目指します。

方針4 商店が生き活きと商いができる環境づくり

◆地域の生活を支える活気ある商店街への取組み

- バス通りを中心とした商店街は、生活者に沼袋らしい魅力を提供し賑わいを生み出すことにより、地域の活性化を目指します。
- バス通りは、沼袋らしいサービスの提供とおもてなしにより、買い物がしやすい商店街を目指します。
- 店先にコミュニティスポット*などを提供することにより、商店街と住民、住民同士のつながりが深まる活動の充実を目指します。

◆統一感のあるまちなみを形成するための取組み

- バス通り沿道は、建物の連続性を高めることなどにより、沼袋らしい統一されたまちなみを目指します。

方針5 まちの新たな顔となる拠点づくり

◆沼袋の顔として駅周辺を魅力的にする取組み

- 駅周辺は、沼袋の顔となる駅舎や交通広場と連続したコミュニティ広場づくりにより、人々の出会いや交流を促す場の創出を実現します。
- 駅周辺は、バス通り沿道のまちなみとつながる沼袋の顔にふさわしい景観づくりを目指します。
- 駅周辺に、子育て支援や高齢者支援などの福祉機能、商業施設や公共サービスなどの生活利便機能、集会所などのコミュニティ機能を設けることにより、暮らしを支える施設の充実を目指します。
- 駅周辺に、まちの情報を地区内外に向けて発信できる機能の充実を目指します。

◆ふたつの拠点とひとつの軸により、沼袋のまちを魅力的にする取組み

- 区民活動センターは、駅を補完しコミュニティ活動や交流の場としての充実を目指します。
- 駅周辺、区民活動センター周辺及びそれらをつなぐ商店街が、一体的かつ相乗的に魅力が向上することを目指します。

方針6 人びとの交流が深まる環境づくり

◆地域のイベント活動の更なる充実に向けた取組み

- 寺社や商店会などのイベントの継承や若い世代による新たな企画を促すことにより、交流が深まるイベント活動の充実を目指します。

◆地域の人々のコミュニティ活動の充実への取組み

- 多様な世代の地域活動への参加機会を増やすことにより、人々の交流が深まるコミュニティ活動の充実を目指します。

※コミュニティスポット—人々のふれあいのきっかけとなるスポット。
商店街の店先や憩いの場などが創出されることを検討会として想定



- | | | | | |
|--|--|---|---|---|
|  駅周辺 |  バス通り |  商店街 |  交通広場 |  学校等 |
|  区民活動センター周辺 |  鉄道跡地 |  寺社等 |  病院・医院等 |  公園 |



(子育てに必要な機能の事例)



(コミュニティスポットの事例)



(ぼたん祭り)

方針 7 災害時に命を守る人づくり・組織づくり

◆自助、近助、共助による防災意識の醸成への取組み

- イベントや学習を通して、ひとりひとりが防災への意識を高める「自助」の活動の充実を目指します。
- 住民間の声かけなどにより、向こう三軒両隣りが助け合うことができる「近助」の意識の醸成を目指します。
- 地域防災会や町会活動の充実により、地域を守る「共助」の組織づくりの推進を目指します。

◆東日本大震災の教訓をふまえた地域の人々による防災行動力の強化の取組み

- 災害時活動マニュアルの作成や防災訓練などにより、災害が起こることを前提とした地域住民の防災行動力の向上を目指します。
- 地震時に倒壊や火災などが想定される塀・空き家・老朽建物などの把握や、家具の転倒や通電火災などを防止する身近な防災対策への呼びかけなど、自らの手で危険を回避する活動の充実を目指します。
- すべての住民が、避難場所や避難所、防災資材倉庫、防火水槽、消火栓など地域の防災設備などの情報の共有を目指します。

◆地域のサポート体制の強化の取組み

- 高齢者や障がい者をはじめとした災害弱者の把握や見守り活動などにより、災害弱者へのサポート体制の強化や災害時の災害弱者救援活動の充実を目指します。

方針 8 被害を最小に抑える減災につながるまちづくり

◆燃えづらく・壊れにくい建物への取組み

- バス通り沿道は、燃えない建物への誘導促進により、延焼を遮断する機能の形成を目指します。
- 建物の耐震・耐火により、命を守ることが出来る建物への建替えの促進を目指します。

◆延焼を防ぎ、避難路となる道路への取組み

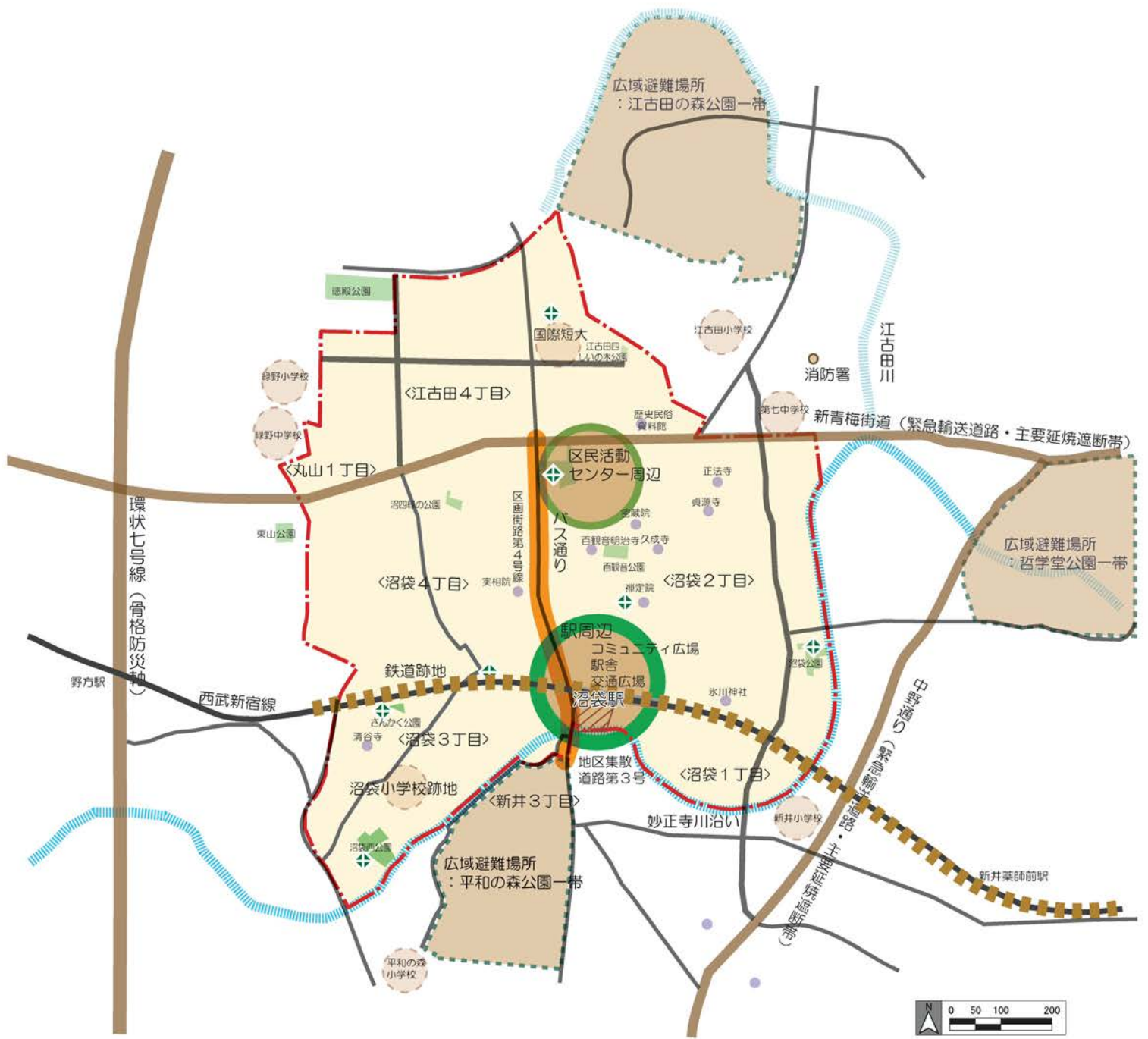
- バス通りや鉄道跡地は、延焼を防ぎ骨格となる避難ルートとして広域避難場所や避難所に安全に避難できるみちづくりを実現します。
- 骨格となる避難ルートまで安全に避難できる道路の確保を目指します。
- 災害時などの緊急車両の通行や安全な避難を可能にするため、狭あい道路の解消を目指します。





◆災害時に、だれもが安心して避難できる場や備えの取組み

- 災害時に人が集まる駅周辺などの整備により、滞留空間を確保すると共に、区民活動センターや避難所などとの情報伝達などの連携の確立を目指します。
- あらゆる災害を想定し、防災資材倉庫や防火水槽など防災施設の整備を目指します。
- 身近な一時避難できる空間や、地域にある事業所の資材・機材や、井戸や妙正寺川の水など地域の資源を災害時に積極的に活用できるまちを目指します。

◆都市型水害への対策の取組み

- 妙正寺川の河川改修のほか、道路や宅地の雨水対策や危険性の周知、避難体制の強化により、大雨の被害を最小限に抑える機能の確立を目指します。



- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
|  バス通り |  駅周辺 |  妙正寺川沿い |  寺社等 |  広域避難場所 |
|  鉄道跡地 |  区民活動センター周辺 |  交通広場 |  公園 |  延焼遮断帯 |
| | | |  防災資材倉庫 | |



(地域を守る共助の推進)



(狭あい道路の解消)



(防災資材倉庫)

方針 9 みどりの繋がり新たな緑化の推進

◆豊かなみどりと水の空間づくりへの取組み

- コミュニティ広場、丸山塚公園、沼袋小学校跡地及び寺社は、みどりと憩える場とすることを目指します。
- 鉄道跡地やバス通りは、緑化の推進により、地球温暖化の緩和に寄与するみどりがつながる空間づくりを実現します。
- みどりと憩える場やみどりがつながる空間、妙正寺川の魅力化などによる回遊路の形成により、水とみどりに親しめるまちを目指します。

◆身近な環境配慮への取組み

- 身近にみどりを感じられるよう、住宅地の緑化推進を目指します。
- 太陽光発電など、ひとりひとりができる地球環境にやさしい活動の充実を目指します。

方針 10 自然資源や歴史・文化資源の活用

◆歴史・文化資源を活かし守る取組み

- 寺社や野仏などの歴史・文化資源を保全し、地域の魅力向上に活用していくことを目指します。
- 身近な地域の歴史や文化資源の情報を地域内外に発信、周知することにより、歴史・文化資源に親しめるまちを目指します。

◆自然資源を活かし守る取組み

- 寺社の緑やまちの保護樹木、妙正寺川の水辺空間や沼袋の景観などの自然資源を保全し、地域の魅力向上に活用していくことを目指します。
- 住民参加と交流を通じて、自然資源を活かし、守る住民意識を育てる活動の充実を目指します。



- | | | | | | |
|------|----------------------|---------|------|-------|----------|
| 鉄道跡地 | 駅周辺
(コミュニティ広場) | 沼袋小学校跡地 | 公園 | 寺社等 | 庚申塔・石仏など |
| バス通り | 区民活動センター周辺
(丸山公園) | 妙正寺川沿い | 交通広場 | 学校 | 西側回遊ルート |
| | | | | 保護樹木等 | 東側回遊ルート |



(鉄道跡地上部緑化の事例)



(歴史文化資源の活用)



(身近なみどりの事例)

7. まちづくりの推進のために

まちづくり構想の実現に向け、まちづくりを進めていくためには、「住民」や「地域団体」や「行政」「民間事業者等」がそれぞれの役割を担いつつ、連携・協働し、まちづくりの活動を行っていくことが必要です。

◆主体ごとの担うべき役割

主体	役割	内容
住民	住民のまちづくりへの関心	○住民は、地域の一員としてまちを知り、考え、まちづくりに関心を持つことが必要
	住民のまちづくりへの参加・参画	○住民は、地域活動やイベント、町会活動などを通じまちづくりに積極的に参加・参画することが必要
	住民の主体的取組み	○住民は、自らの取組みとして、まちづくりに主体的に取組むことが必要
地域団体	住民参加の機会の創出	○地域団体は、住民の参加しやすい活動を企画、実践することにより、まちづくりへの参加機会を創り出すことが必要
	地域団体のまちづくりへの参加・参画	○地域団体は、それぞれの活動を通じ、まちづくりに積極的に参加・参画することが必要
	地域団体同士や他の組織との連携と協力	○地域団体は、他の地域団体とまちづくりの目標を共有し、団体の得意分野を活かしながら連携し、協力することが必要
行政	住民や地域団体の合意形成を図り、意見を踏まえ取組む	○行政は、地区内道路の整備や災害対策などのため住民や地域団体に説明し、合意形成を図るとともに、意見を踏まえ、予定の期限内に必ずまちづくりを実現することが必要
	関係機関との調整	○行政は、まちづくりに関連する民間事業者や地域団体等との調整を行うことが必要
民間事業者等	住民や地域団体の意見を反映した事業を実施	○民間事業者は、顔となる鉄道駅舎の整備や便利なバス路線など、地域の声を反映した事業を行うことが必要 ○地域の民間事業者は、それぞれの得意分野を活かしながら地域貢献を行うことが必要。

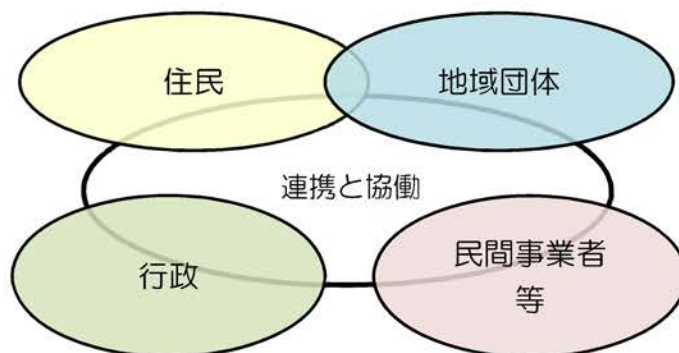
※住民：地域に住む人、地域で働く人、地域で学ぶ人 等

※地域団体：町会、商店会、地域防災会、消防団、区民活動センター運営委員会、ボランティア団体、文化・スポーツ団体、NPO法人等

※行政：中野区、東京都、警察、消防 等

※民間事業者等：西武鉄道、京王バス、関東バス、東京電力、地域の民間事業者 等

◆主体の連携



8. 今後の取組み

まちづくり構想を実現させるためには、検討会が地区まちづくり条例の登録団体として、まちづくりの核となり積極的に構想で示したひとつひとつの取組みについて、計画的に進めていくことが必要です。ここでは、構想提案後の沼袋駅周辺地区まちづくり検討会の活動方針についてまとめました。

● まちづくり活動計画の作成

まちづくりのテーマ「道路・交通」「まちの活性化」「防災・安全」「みどり・水・歴史文化資源」ごとに定められた10の方針とその具体的な取組みについて、住民、地域団体、行政、民間事業者等それぞれの主体ごとの活動を促し、かつ主体間の連携を高める方策及び活動スケジュール等からなるまちづくり構想全体の活動計画について、取組みアイデアも参考にしながら検討し、優先度を考慮し作成します。

- ・ 地域住民のまちづくりへの参加や、地域活動の推進の計画
- ・ 地域団体同士及び検討会と地域団体との連携並びに活動の計画
- ・ 区との協働の取組みの計画
- ・ 民間事業者との協働の取組みの計画

● まちづくりの取組みの進め方

まちづくり検討会は、まちづくり構想の具体的な取組みについて、区、地域団体、民間事業者等と定期的に意見交換等をするとともに、節目ごとに自ら点検、検証するなど継続してまちづくり構想の実現に向けて活動します。

まちづくりの契機となった、西武新宿線の連続立体交差事業と区画街路第4号線に関わる取組みについては、地下化される西武新宿線沿線や交通広場となる沼袋駅南側、拡幅されるバス通り沿道の皆さんに配慮して進めていきます。

また、この取組みはまちづくり構想の重要な事柄になることから、区と定期的に意見交換等を進めていきます。

地域住民が主体となり、実現させたい取組みについては地域団体などと密に状況確認、調整を進めていきます。

新井薬師前駅周辺地区まちづくり検討会と共通する取組みについては、連携して活動を進めていきます。

● まちづくり構想実現に向けて

まちづくり構想の実現に向けては、地域住民の皆さまの協力が不可欠です。まちづくり検討会は、今後も地域の皆さまに進捗状況等を報告するとともに、皆さまの声を反映させたまちづくりの実現に向けて、活動を継続してまいります。

